

いますので、ぜひ市長、その大胆な決断を求めて、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（春田 新一君） これで、吉野元君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 昼食休憩とします。再開を午後1時5分からとします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 皆様、こんにちは。議長のお許しをいただきましたので、これより一般質問を行います。会派、新友会、3番議員、諸松瀬里奈です。

本日は、市の将来に関わる大きなテーマとして、財政の現状と将来負担、そして、その中で、私たちは何に投資していくのかという点について伺いたいと思います。

初めに、本市の財政状況と将来負担について伺います。

今回、私は、現金主義に基づいた決算カードではなく、平成28年度から公表されております発生主義の財務諸表を基に、市の財政状況を確認いたしました。

もうすぐ令和6年度の財務諸表が出ますが、現状で最新の財務諸表は、令和5年度分ですので、今回は、令和5年度の資料を基に話をいたします。

市の財務諸表、言わば市の家計簿を見ますと、対馬市が持っている資産の多くは、行政サービスを提供するための学校や庁舎、道路、港湾といった有形固定資産、つまり建物やインフラです。

これは、これまで市の市民の暮らしを支えてきた大切な資産ではありますが、同時に持ち続ける限り、維持費や管理費、修繕費、いずれは建て替えや解体の費用がかかるものでもあります。家庭で例えるなら、家を持っていること自体は財産だが、年数がたてば修理や建て替えが必要になるということと同じことです。

まず、この有形固定資産の保有状況と、将来世代への負担を示す指標である純資産残高の余剰分、（不足分）と書いてありますけれども、との関係について、市長はどのように認識されているのか伺います。

ここで、議場でタブレットをお持ちの方は、事前配付しております資料1—1、テレビの御覧の方は資料1—2、今から出しますけれども、を御参照ください。

これですね。対馬市が持っている固定資産が、図の黄色のところ、そして財務諸表で言うと、貸借対照表の右側の黄色で示されているところ、固定資産の総額、金額で見ると、2,082億

円です。ここですね。そしてピンクのところを示されている、こちらの右のところ、余剰分（不足分）とありますけれども、これが約マイナス415億円分あります。これは貸借対照表で、左側が固定資産が示されておりますけれども、対馬市として何を持っているのかというのを示しております。そして右側が、それを得るに当たって何を基にそれを持っているのか、固定資産を持っているのかというのを意味されております。

その2,082億円というこの固定資産等形成分ですね。これは今までに対馬市が持ってきた資産の総計分です。それに対馬市は言わばローンを組んで債権等を発行して、そして国等に返しながらその資産を持ち続けているんですけれども、そのローンと老朽化、毎年老朽化しています。その老朽化の差が415億円という貸借対照表の表示になっております。この部分ですね。

ちなみに、対馬市の保有資産、もちろん年々老朽化しておりますけれども、どういうペースで老朽化していくかということ、2枚目のですね、皆さんお手持ちのタブレットの行政コスト計算書という2枚目のページに出てくる減価償却費、これも黄色で示されております。59億円です。この表で見ますと、一番真ん中ですね。減価償却費、約59億円。これ毎年、建物の価値が減っていく分です。それとローンの差額がマイナス415億円という表示になっております。それについての市長の御見解をお願いします。

さらに令和9年度には、公共施設等個別施設計画の見直しが予定されております。こちらは資料2を御覧ください。対馬市が保有する公共施設は891施設あります。その延べ床面積の合計は45万8,655.04平方メートルになります。延べ床面積ですね。これを対馬市民、およそ2万7,000人で計算しますと、市民1人当たりの公共施設は17平方メートルぐらい、約ですね。

これは全国平均、データで総務省の公共施設状況調査を基に見ましたけれども、全国平均は3.5平方メートルから4平方メートルです。対馬は実に4倍以上の公共施設を抱えているということになります。もちろんこれは、離島地域を考慮する必要はもちろんありますけれども、それを考えても全国平均の4倍という規模は、人口減少時代を迎える中、将来負担を考えるとかなり重いというのが見えてまいります。

対馬市の公共施設等個別施設計画では、令和4年度から令和8年度の4年間で42件、床面積では9,300平方メートルの削減をするという計画でしたけれども、それでも4年間で全体の2.8%ほどの削減計画にとどまっております。この公共施設整理ペースというのは果たして十分と言えるのでしょうか。

これからは、どの施設を残し、どの施設は役割を終えるのか、あるいはどう活用すれば新たな価値を生み出せるのかという判断が避けて通れないと思います。将来世代に過度な負担を残さないために、公共施設や固定資産をどのような考え方で整理・活用していくのか、市長の基本的な

方向性を伺います。

次に、こうした財政状況を踏まえた上で、今後の予算配分、言わば何にお金を使い、何を優先するのかについて伺います。

限られた財源の中では、全ての分野に十分な投資を行うことはできません。だからこそ選択と集中が必要になります。

決算資料を見ると、近年、教育分野への支出は増加している一方で、観光・産業分野への支出は過去3年間で減少しております。

資料3を御覧ください。これは、令和4年度から令和6年度の対馬市が出しているデータの中で、主要な施策の成果報告書という資料がありまして、そこから抜粋しております。すみません。テレビを御覧の方、数字が細か過ぎて見えないかと思えますけれども、オレンジ色に色づけされてあるのが、一番上が教育費になっていて、次にオレンジ色で表示されているのが観光・産業分野になります。費目でいうと農林水産業費と商工費になります。

これが、過去3年間を見ていると、教育分野の支出が増加傾向が見られております。これは将来を見据えた狙いを持った投資なのか、それとも人件費や施設維持費といった避けられない経費が増えた結果なのか、その背景と教育分野への支出を通じて、市として何を目標しているのかというのを伺います。

次に、観光・産業分野への支出減少について伺います。

表で言うと、真ん中あたりの観光・産業、色づけしたところですが、3年間で支出が減少している傾向が見られております。これは、あらかじめ意図した予算配分なのか、あるいは事業の終了や補助金の終了など結果として生じたものなのか、その要因と市としての受け止めを伺います。

あわせて、今後の投資の考え方について伺います。教育への投資は、人を育てるための投資です。一方で、観光や産業への投資は、島で暮らし働き続けるための土台をつくる投資だと私は考えます。

対馬で育った子どもたちが大人になったときに、対馬で働き、対馬で暮らしていけると考えるようにするために、教育と観光・産業をどのように結びつけていくのか、限られた財源の中で、どの分野をどのような考え方で選び集中させていくのか、市長が考える将来像と、そのための投資の考え方を伺います。

最後に、観光ガイドマップの在り方について伺います。

前回の一般質問において、市長から、今後は国内観光客の誘致を積極的に進めていくとの答弁がありました。また、前日までの予算委員会においても、国内観光客を積極的に誘致していくというコメントをいただいております。

また、私がこの市議会議員になった直後の昨年6月頃、この担当課長に旧ガイドマップの増刷をお願いしまして、それがかなったのかどうか、今年度の予算で増刷をいただけるというお話もいただきました。ありがとうございます。

実は観光ガイドマップというのは、最近変遷をしてきておりまして、ここに新旧ガイドマップを持ってきたんですけれども、こちらが前の観光ガイドマップ「対馬まるわかり！ガイドマップ」というものです。これ割とガイドとしても、そして島内を巡る人としても、すごく使いやすいと、とても好評でした。これを広げると、一面に対馬の全島地図が広がってまいります。これを我々観光ガイドとしても、バスガイドとか、まち歩きとか、様々なガイドのシーンで使わせていただいております。

これが数年前に差し替えということになって、今はこういったすごく目立つような対馬ガイドブックというですね、対馬を感じて、考える、「対馬感考」という新たなキーワードで新たなガイドマップが出されておりますけれども、ここに真ん中に対馬の全島地図があるんですが、このように全島地図がありますけれども、なかなかこれが見づらいと。どこを走っているのか、今、自分がどこにいるのか分からないといった御意見も度々聞かれております。

なので、観光ガイドとしては、これより前ですね、こちらが使いたくて、再三にわたり要望を上げ続けていたんですけれども、ガイドマップについては、この紙の媒体ではなくてデジタルの媒体で今後行きますよというところで、でも使いたいし、ニーズがあるので、我々観光ガイドとしては、あんまり使いたくはないんですけれども、大量に余っている韓国向けの観光ガイドマップをお客様にお配りして——国内からのお客さんですよ。これをお配りして、中身は、これ広げてもらったら分かるんですけれども、全島地図が同じようにあって、周りはハングル、韓国語だらけなんですけれども、地名は日本語なんです。

なので、この使い方によっては、今、自分がどこを走っているのかというのが、韓国語バージョンでも見えるというところで、我々ガイドとしては、無理やりこの韓国語用のガイドマップを使っておりまして、ただ、ちょっと日本人の方に向けて、こういった韓国向けのそのガイドマップを配るというのは、とても忍びない状況だったんです。

これが、このたび増刷していただけるというところで、本当に島の最前線に立つ観光ガイドの声をお聞きいただきまして、本当にありがとうございます。

国内観光客を大切にしていけるのであれば、対馬を初めて訪れる方にも、安心して分かりやすく島を巡ってもらえる環境づくりが重要だと考えます。

現在、市では、観光情報のデジタル化を進めているということですが、一方で、紙の観光ガイドマップは、一目で全体が分かる、通信環境に左右されないといった強みも持っています。デジタルと紙、どちらか一方ではなく、それぞれの特性を生かしながら、来島前、来島後、滞在

中と場面に応じた情報提供を行うことが、観光満足度の向上や再訪につながると考えております。

今後、国内観光客を増やしていく中で、観光ガイドマップを含めた情報発信をどのような考え方で整理し進めていくのか、市長のお考えを伺います。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 諸松議員の質問にお答えいたします。

初めに、公共施設・固定資産と将来負担の捉え方についてでございますけれども、固定資産と純資産残高の関係についてでございます。

本市におきましては、従来の現金主義・単式簿記では、把握しきれなかった資産、負債や減価償却費等が見える化し、財政の透明性の向上かつ効率的な行政資産経営を目的として、発生主義・複式簿記を用いた財務書類4表を作成し、平成28年度決算から公表しております。

この財務書類4表による資産の大部分は、道路や公共施設などの有形固定資産が占めております。これはこれまでの公共施設整備や道路・橋梁といったインフラ整備の積み重ねの結果であり、これらの資産は、市民の皆様の税金や国県支出金、あるいは地方債を財源として掲載されております。

純資産の部は、自治体が保有する資産のうち、将来の世代に返済義務を負わない財源を指しており、これまでの世代が既に負担を終え、次世代に引き継ぐべき財産の正味の価値を表しております。

議員御指摘のとおり、有形固定資産は、毎年の利用に伴い減価償却が進みます。これは資産の価値が目減りしていくプロセスであり、同時にその分だけ純資産の余剰分を減少させる要因となります。

私は、この固定資産と純資産の推移を単なる数字の変動ではなく、公共施設マネジメントの指針として大きく重く受け止めており、今後の公共施設の更新や維持管理を見据えますと、限られた財源の中で将来世代への負担を軽減しつつ、持続可能な公共サービスを提供していくため、施設の集約化や計画的な長寿命化を進めていく必要があると認識しております。

次に2点目の将来負担の圧縮に向けたこれまでの取組についての質問でございますが、財務書類における純資産残高、いわゆる余剰分につきましては、減価償却の進行等により年々圧縮されている状況にありますが、その一方で、新規投資の抑制や計画的な施設管理などを通じて、将来負担の増加を抑制しようとする取組の結果が一定程度反映されているものと認識しております。

また、1年以内に償還期限を迎える地方債につきましては、基金などの流動資産等を充てて対応している状況であり、潤沢な余裕があるとは言えない面があることは事実でございます。

しかしながら、現時点においては、資金繰り上の支障が生じているものではなく、資産の目減りに併せて適切に基金を積み立てる、あるいは過度な地方債を抑制することで、将来世代に老朽

化した資産と借金だけを残すことのないよう、健全な純資産水準を維持してまいりたいと考えております。

次に、3点目の対馬市公共施設等総合管理計画の見直しと資産の扱い方についての質問でございますが、本市では、令和7年度に公共施設等総合管理計画の改定を進めており、今後は個別計画の見直しにより、施設ごとの役割や必要性を丁寧に見極めながら、除却か活用かを判断いたします。

具体的には、利用状況や将来需要、安全性、維持・更新に要するコスト、さらには地域における機能や代替手段の有無などを総合的に勘案し、将来にわたり行政サービスの提供に不可欠な施設については、長寿命化や複合化、民間活力の導入などにより、新たな価値を生み出しながら活用を図る一方、役割を終えた施設や将来的な需要が見込めないものについては、除却や用途転換も含めた見直しを進めてまいります。

いずれにいたしましても、限られた財源の中で全てを維持するのではなく、選択と集中の考え方に基づき、将来世代に過度な負担を残さないことを最も重要な視点として、持続可能な公共施設の在り方を検討してまいりたいと考えております。

次に、予算配分の考え方についてでございますけれども、初めに教育分野への支出が増加している要因についてでございます。

教育費予算は、令和2年度の教育費の総額が約2億4,000万円で、令和6年度の教育費総額は2億7,700万円で、約1億9,700万円の増となっております。

この予算の増額の主な要因は、人件費の増や物価高騰、施設の老朽化に伴う改修や施設整備に係る予算が年々増加していることによるものであります。

令和5年度から令和6年度におきましては、厳原中学校長寿命化工事を実施しており、設計監理委託料及び工事費を含め、約3億1,500万円、令和6年度から令和7年度にかけて、同じく厳原中学校に特別支援学校設置のための大規模改造工事を実施し、約1億8,487万円をかけて整備している状況もございます。

施設整備により子どもたちが1日の大半を過ごし、学ぶ環境を整えることも、対馬の将来を担っていく子どもたちにとっては重要な部分であるとともに、子どもたちの成長や人間形成に係る部分への予算は重要であると考えております。

教育委員会におきましては、総合的な学習の時間、ふるさと学習や給食費の負担軽減のための補助、コミュニティ・スクールの導入や学校適正規模のための統廃合、スポーツ・文化活動への子ども夢づくり基金補助金など、対馬を愛し、対馬に残って活躍いただくこと。また、一度は進学で島外に出ても、Uターン等により対馬に戻って活躍いただけるよう、ふるさと対馬の将来を担う子どもの育成に取り組んでいる状況でございます。

今後も引き続き、対馬を愛し、対馬の将来を担う子どもの育成に向けた施策を重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、観光及び産業分野における過去3か年の決算状況について、令和4年度から令和6年度にかけて、支出額が減少している要因についての御質問でございますが、観光分野における支出額の減少については、主に次の要因によるものであります。

まず、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症からの回復期であり、国の新型コロナ臨時交付金等を活用した経済対策事業として、キャッシュレス決済促進経済対策事業などを実施しました。このため、当該年度は臨時的に事業費が増加しております。

令和5年度以降は、感染症対策関連の事業が縮小したことから、前年度と比較し、臨時的な事業費は減少しております。

また、その他の要因といたしましては、令和5年度には、三宇田浜園地リニューアル事業と韓国展望所リニューアル整備事業の完了に伴う支出額が計上された一方で、令和6年度に着手したあそうベイパーク整備事業は繰り越し事業であり、当該年度の支出額は事業費の一部のみの計上となっております。

次に、農林水産分野における令和4年度から令和6年度決算の主な減少要因といたしましては、観光分野と同様に、令和4年度及び令和5年度において新型コロナ臨時交付金や物価高騰対応臨時交付金を活用した各種事業を実施しており、臨時的に事業費が増加したことが主な要因でございます。

また、その他の要因といたしましては、水産業につきましては、令和4年度、令和5年度においては、国の産地水産業強化事業補助金を活用した製氷施設や給油施設の整備件数及び事業費が大幅に増加したことや、国の補正予算による魚礁整備箇所が通常年度においては3か所に対し、令和4年度で8か所、令和5年度で7か所と大幅に事業費が増加したことであります。

さらには、上対馬沖で発生した座礁船撤去事業が、令和3年度・令和4年度の2か年で約3億6,000万円の事業として実施されたことなどが主な要因でございます。

以上のように、観光・農林水産の両分野ともに、国の補正予算や新型コロナウイルス感染症対策などの特殊要因によるものと認識しております。

次に、限られた財源の中で、どのような選択と集中のバランスを取っていくのかとの質問でございますが、令和8年度施政方針、糸瀬議員の一般質問答弁と重複いたしますが、本市における重要課題は人口減少対策でございます。その対策において、次代を担う人材育成、経済の基盤となる産業振興、そして地域の魅力を発信する観光振興、これら全てが不可欠であり、優先順位をつけたい重要な柱であると考えております。

厳しい財政状況ではございますが、各分野の情勢を見極めつつ、国県補助金等の有効的な活用

など、戦略的かつ効果的に予算措置を行い、人口減少対策に向けた施策を重点的に取り組んでまいります。

最後に、国内観光客重視の方針を踏まえた情報提供の在り方についてでございますが、本市では、現在、観光振興の重要施策として、スマートフォン等で手軽に観光情報を入手できる、対馬観光デジタルマップの運用により、観光のDX化を促進しております。

一方で、紙媒体の観光ガイドマップに関しては、デジタル媒体では得られない対馬全域の広範囲な地理情報や距離感、位置関係を容易に把握できる利便性に加え、観光案内におけるガイド目線での実用性から、依然として従来の紙媒体のガイドマップを必要とする声を多くいただいております。

こうしたニーズを踏まえ、今年度におきましては、利便性確保のため、紙媒体である「対馬まるわかり！ガイドマップ」の増刷に向けて、現在、内容校正等の作業を進めており、完成後は、ふれあい処しまなどの観光案内所で配布する予定でございます。

今後の観光情報の在り方についての考え方でございますが、まず、対馬観光デジタルマップは、観光DXの軸として今後も推進してまいります。その特徴である情報の即時性や情報量の多さ、閲覧者の利便性向上を活かすことで、従来の紙媒体に比べて印刷製本費の削減を図ることが可能でございます。

次に、紙媒体の観光ガイドマップにつきましては、実用性の高い観光情報提供の手段として、今後もデジタル媒体を補完する形で、必要最小限の範囲において効果的に活用を継続してまいります。

このように、双方の媒体が持つ利点を最大限に活用し、本市にとって最も効果的な情報提供の在り方を実現することで、観光満足度のさらなる向上に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 市長、答弁をありがとうございます。

まず、観光ガイドマップにつきまして、紙媒体からデジタルへ移行というところで、まだまだ移行期として時間が必要なのかなとガイドとして感じている中で、このガイドマップの活用を継続していくという市長の御答弁、大変心強くありがたく思っております。

先ほど、私、1回目の質問のときに、質問というか、説明をし忘れたところがありまして、申し訳ありません。もう一度、資料1を御覧いただければと思います。

質問で言うと、大きな質問の2番のところですね。1年以内に償還予定の地方債を流動資産等で返済せざるを得ない状況であるというところを、私、説明すべきだったところを間違えて抜かしてしまいまして、市長の答弁、先ほどいただいたんですけれども、再度、市民の皆様に分かり

やすく伝えるために、ちょっと状況だけ御説明させていただきたいと思います。

皆さん、タブレットをお持ちの方は、貸借対照表の青いところを御覧いただければと思います。

今、画面に表示されている資料で言いますと、一番下のところの青いところですね。1年以内に返す借金と私が書いているんですけれども、これが1年以内の償還予定の地方債です。これが毎年大体47億円上がっておりまして、これを毎年、大体その金額を返さざるを得ない状況であるというところで、じゃあ何をもって返すのかというところが、下のほうにずらずらと書いているんですけれども、返済に使うお金として、まず現預金がありますね。現預金約13億円。そして財政調整基金、これ対馬の貯金と言えるところですけれども、32億円。そして借金返済に充てる基金として専門の基金があります。それが減債基金なんですけれども、これは貸借対照表の資産の部の流動資産と固定資産、両方上がっておりまして、それがそれぞれですね。流動資産が6.9億円。そして固定資産が約32.4億円あります。

これを足していくと、この減債基金だけでは、流動資産と固定資産の減債基金だけでは、この1年以内に返す借金というのは賸いきれなくて、どうしてもやはり財政調整基金に頼らざるを得ないという状況が、この貸借対照表の表示から分かることなんです。

このところをどう市長は認識されていますかというところを、御説明すべきところを抜かしてしまいました。重ねて申し訳ありません。

先ほどの市長の答弁をお聞きしまして、このところは過度な地方債に頼ることなく抑制しながら、うまくバランスを取りながらやっていきますよという答弁だったかと思います。ありがとうございます。

昨日までの予算審査特別委員会等も通じて細かいところを見させていただきまして、昨日の市長の最後の質疑のところ、私、聞きました。今回の予算の大きなポイント、ここにお金を使うんだというポイントはどこですかと聞いたところ、市長は今年度の予算を将来への投資という位置づけであると答弁された上で、特にSDGs戦略課での取組がその一つであるというお話がありました。

それについて少し伺いたいと思うんですけれども、市長がSDGs戦略課を通じて実現したい具体的な政策目的というのは、どのようなものでしょうか。そして、その取組や本市の財政や地域経済にどのような形で寄与するとお考えでしょうか。

市長が、昨日、投資というキーワードを使っていただいて答弁されたという位置づけである以上、どのような成果、またリターンを想定しておられるのか、もしお考えがありましたらお聞かせください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 昨日の予算の総括質疑の中でも申し上げましたけれども、要は基金の

ほうを取り崩して、そしてまた起債等も抑制をしながら予算編成をしていくということで、自由度がなく大変厳しい予算編成となっているということを申し上げたかと思いますが、そういった中で、しかしながら、やはり将来の対馬を考えたときには、どうしても将来投資ということでの事業等はやらざるを得ない事業だといったようなことで、将来的に、このSDG s 未来都市に向けた施策等はやっていかなくちやならない。

ましてや、将来を担う子どもたちが、この対馬の次代を担う子どもたちのためにも、教育費のほうについては欠かせないものだというふうに思っております。

ましてや、一次産業の重要性に鑑み、必要な部分については、投資もやむを得ないと考えておりますし、今現在、韓国からのインバウンド等で26万人から27万人という形でお見えになっておりますけれども、こういった観光施策等に要する経費等も、やむを得ず、これは投資をしていかなければならないものだというふうに認識をしているところでございます。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 御答弁ありがとうございます。基金を取り崩しながら、将来負担を減らすための起債を減らすという市長の御答弁。そしてSDG s 戦略課での投資はやらざるを得ないというところで、このやらざるを得ないという市長の思いは、どこから生まれるものなのでしょうか。

今、財政状況が厳しいときに、投資をせざるを得ないと市長がおっしゃるその意図というかですね。そこの対馬をどういう島にしていきたいのかというビジョンがあるからこそ、この財政状況が厳しい中でも、ここはもう使わざるを得ないんだ、使いたいんだというところが、もう少し具体的に市長からお言葉をいただければと思います。お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在、世界もこのSDG sの達成に向けていろんな方面で努力をされている状況でございますけれども、私たちのここ対馬におきましては、まず具体的な一例いたしまして、年間3万立米から4万立米に相当する海洋漂着ごみ等が流れ着いております。これをそのまま放置しておいては、第一次産業の漁業等にも大きな被害を生むことになりまして、これを何度も回収をして、これを資産に変えていくということで、その方策を今現在、民間事業等の力を借りていろいろと進めているところではございますけれども、これをやっていかないと、対馬は将来的にその漂着ごみ関係では、ごみの島になってしまうということで、この対策も必要ですというようなことで私は進めていかざるを得ないという言い方をしているところでございます。御理解願います。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 市長の思い、しっかりと受け止めました。このSDG s 戦略課

での取組を通して、漂着ごみから対馬の一次産業を守ると。そうすることで将来の対馬での生活、子どもたちの生活を守ると。さらに漂着ごみを資産に変えるという市長の思いを伺いまして、ありがとうございます。

2番目の質問に戻りたいと思いますけれども、先ほど市長ですね。2番目というか、1の3ですね。この公共施設が今たくさん残っていると。この除却か活用かというのを判断しながら進めていくという御答弁をいただきまして、その判断基準はどのように考えておられるでしょうか。最後をお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この公共施設等は約890施設ほどございますけれども、この中でも、やはり重要な施設等はございますけれども、これらは簡単に除却することができない施設でございます。

こういったところについては、長寿命化対策等を実施していかなければならないというふうに考えてはおりますけれども、ただ、どうしても公共施設の中で一定の役割等が終えて、除却せざるを得ない施設も多く残ってはおりますけれども、ただし、この除却費用も今現在かなりの費用がかかる状況ではございますので、ここら辺は優先順位等を確認しながら除却を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） ありがとうございます。対馬には大きな可能性があると思っております。その可能性を生かすためにも、財政の土台をどう整えていくのか、この議論を市民と共有していくことが大切だと考えております。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、諸松瀬里奈君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開は2時10分からとします。

午後1時55分休憩

午後2時10分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。9番、陶山荘太郎君。

○議員（9番 陶山 荘太郎君） 皆様、こんにちは。新政会、9番議員の陶山荘太郎です。

質問の前に、昨年6月議会の一般質問において質問しました鶏鳴小学校をはじめとした小学校体育館の照明切れと美津島体育館の女子トイレの改修を迅速に対応していただき、誠にありがと